

残る
消えゆく

地名のはなし

三



加茂郡太田村家並絵図（弘化2年）（中山道ミニ博物館 蔵）

「新町」のはなし

旧中山道太田宿の新町の成立は、同じ宿場内の上町・中町・下町よりも遅く、江戸時代後期になってからといわれています。それは絵図からも知ることができます。例えば、寛政年間(18世紀末)の「中山道分間延絵図」には祐泉寺より東に家並みは描かれていません。それから約40年後の1845(弘化2)年にできた「加茂郡太田村家並絵図」には新町の地名も家並みも見られます。

新町成立の理由の一つに渡し場の移動が挙げられます。新町は、渡し場が木曾川の上流へ移動したことにより、家並みも徐々に上流へ延びて出来上がった「新しい町」といえます。

◆主な参考文献

『美濃加茂市史 通史編』